

代表質問

■生活基盤に対する支援の方策について
コロナ禍における支援は？

質 新型コロナウイルス感染症が市民の日常生活に先の見えない状況と健康に対する不安をもたらして早3年、未だ感染まん延防止のための不要不急の外出を控えることが長く続いている。この状況下でも市民の日常生活を停滞させるわけにはいかない。

コロナ禍においても市民の社会生活を支えている各業種に対し、今後も経済活動を維持できるような方策や、コロナ禍が落ち着いた状況での支援策をどのように描いているのか伺う。

答 七尾市独自の国の事業復活支援金への上乗せにより、まずは疲弊した事業者の事業継続を支援しているところである。

第6波の収束を見据えた次の一手として、地域経済の消費喚起を促す第3弾キャッシュレス決済ポイント還元事業を行う。さらに、宿泊業者への支援として、2億5千5百万円の七尾版GoToトラベル推進事業に取組み、段階的に地域経済の立て直しを図っていく。



垣内 武司 議員 (灘会)



キャッシュレス決済 (イメージ)

コロナ禍における支援

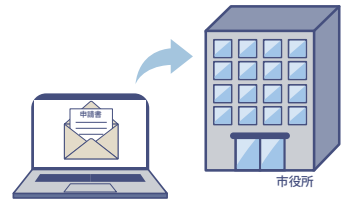
事業継続のために・・・	第6波収束を見据えて・・・
事業復活支援金 (国の事業) 上記の国事業への上乗せ 法人20万円、個人10万円の上乗せ	第3弾 キャッシュレス決済ポイント還元事業 七尾版GoToトラベル推進事業

代表質問

■デジタル化について
オンライン化が可能な手続きは？



永崎 陽 議員 (新政会)



質 七尾市デジタル化推進計画の案が示され、そのなかで現時点で課題があり活用の拡大となっていないとあるが、その課題克服のための対応措置をどのように捉えているか伺う。

また、行政事務の効率化だけでなくデジタル化では意味がなく、市民の恩恵享受というのは当然求められる。現時点でオンライン可能な手続というのは452件あり、令和5年度までに随時オンライン化することだが、令和4年度に取り込める内容について伺う。

答 AIの活用やRPAの導入には、下表に示す課題があり、今後、国が示すガイドブック等で、他市の例を参考にしながら、どういったものが効果的に行えるか引き続き検討していく。

オンライン可能な手続は、現在、国のびったりサービスと七尾市独自の電子申請サービスが利用できる。びったりサービスでは、今年度は、4つの手続ができ、令和4年度には子育てと介護の関係の22の手続をオンライン化する。七尾市独自の電子申請サービスは令和4年度には100件を目標にオンライン化する。今、申請件数が多いものを洗い出ししており、順番にオンライン化していく。

AIの活用やRPA導入についての課題と対応

AIの活用	議事録支援システムの活用にとどまっていること	→ さらにどのような分野や業務に活用していくか検討する
RPAの導入	既存の業務のやり方によっては効果が得られない業務があること	→ 業務プロセスの全面的な見直しが必要

代表質問

■特別天然記念物トキ放鳥受け入れについて
トキの放鳥地に手を挙げよ！

質 石川県議会2月議会にて、知事は、特別天然記念物トキの受け入れの方針を明らかにした。世界農業遺産に認定されている能登地域での放鳥を想定し、実現には関係市町の協力が不可欠と述べている。

七尾市は、平成24年～26年の3年間、「能登の里山里海」保全事業で里山チャレンジ事業とトキが舞う里づくり事業を行ってきたが、その成果をどのように評価しているのか。また、放鳥地に七尾市が応募するのかが伺う。

答 里山チャレンジ事業では鉦打ふるさとづくり事業では能登自然の里ながさきが、耕作放棄地を活用してビオトープを造成し、生物多様性の保全や地域住民の理解促進につながっていると考えている。

能登地域は放鳥候補地として最有力候補だ。能登地域が一丸となってトキが生息しやすい環境整備に取り組む必要があり、候補地に選定されれば、石川県、関係市町と連携を図っていく。この地域にトキが来ることは非常にうれしいことであり、前向きに検討する。



木下 敬夫 議員 (あすなろ)



トキが舞う里山 (イメージ)

ビオトープとは

動物や植物が安定して生活できる生息空間 (生物生息空間) のこと。「bio (命)」と「topos (場所)」を組合わせた造語。